第23期（2021年3月期）
決算のご説明

2021/5/13

Future Venture Capital

目次

1. 事業内容及び決算説明　・・・・P.03

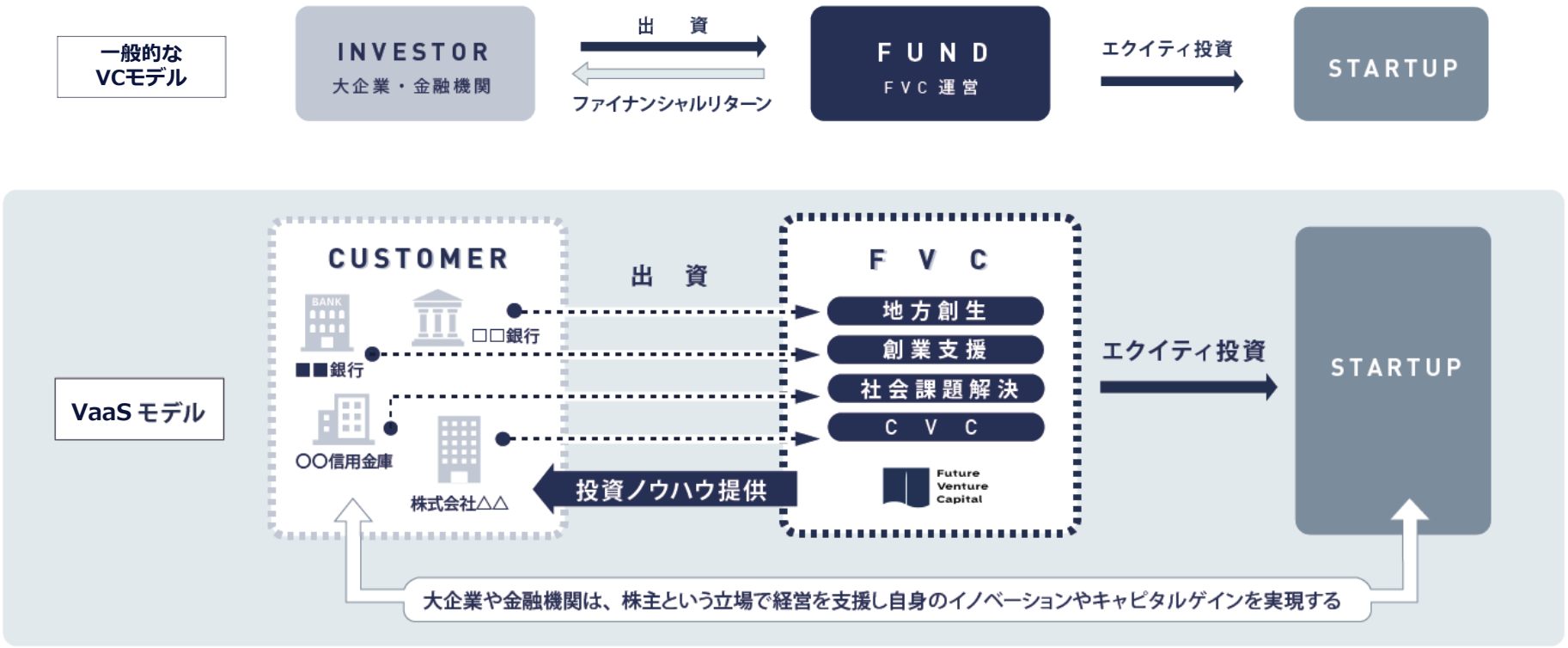
2. 主な取り組み　・・・・P.21

事業内容及び決算説明

1.1.事業内容（VaaSモデルへ転換）

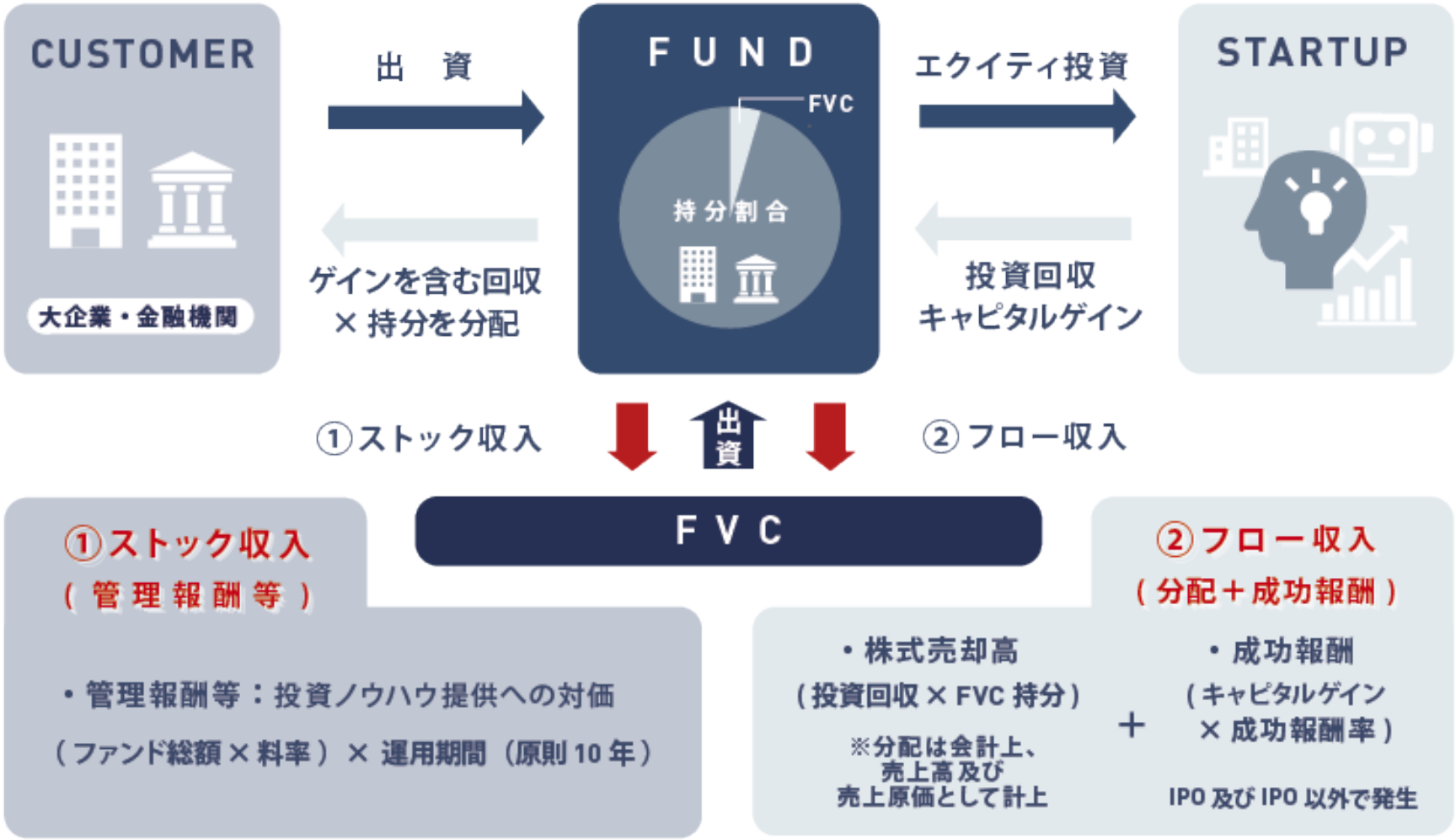
Future Venture Capital

エクイティ投資によるファイナンシャルリターンのみの追求から、投資ノウハウを広く提供し、利用者から継続的な収益を得るモデルへ数年かけて転換。



FVCはファンド運営機能の提供者として唯一のポジションを確立し、エクイティ投資に係る様々なノウハウを定額で提供することで長期安定収益体制を構築し、カスタマーの中長期の事業戦略をサポートすることが可能となった。
（VC as a Service=VaaSモデルと定義）

1.2.VaaSモデルによる収益構造



Future Venture Capital

VaaSモデルにおけるLTV（Life Time Value）

LTV＝購買単価×購買頻度×継続購買期間－費用

ＦＶＣにおけるLTVを最大化させるためのポイント

- 購買単価を上げる＝ファンド規模を大きくする+ファンド付帯収入を増やす。
- 購買頻度を上げる＝リピートファンドを組成する。
- 継続期間を伸ばす＝ファンドの運用期間は通常8～10年程度。長期化の余地は少ない。
- 獲得費用を下げる＝認知度向上によるリードタイムの短縮化＋リピートファンドの組成。
- 維持費用を下げる＝スケールメリットによりファンド当たりの運営コストを下げる。

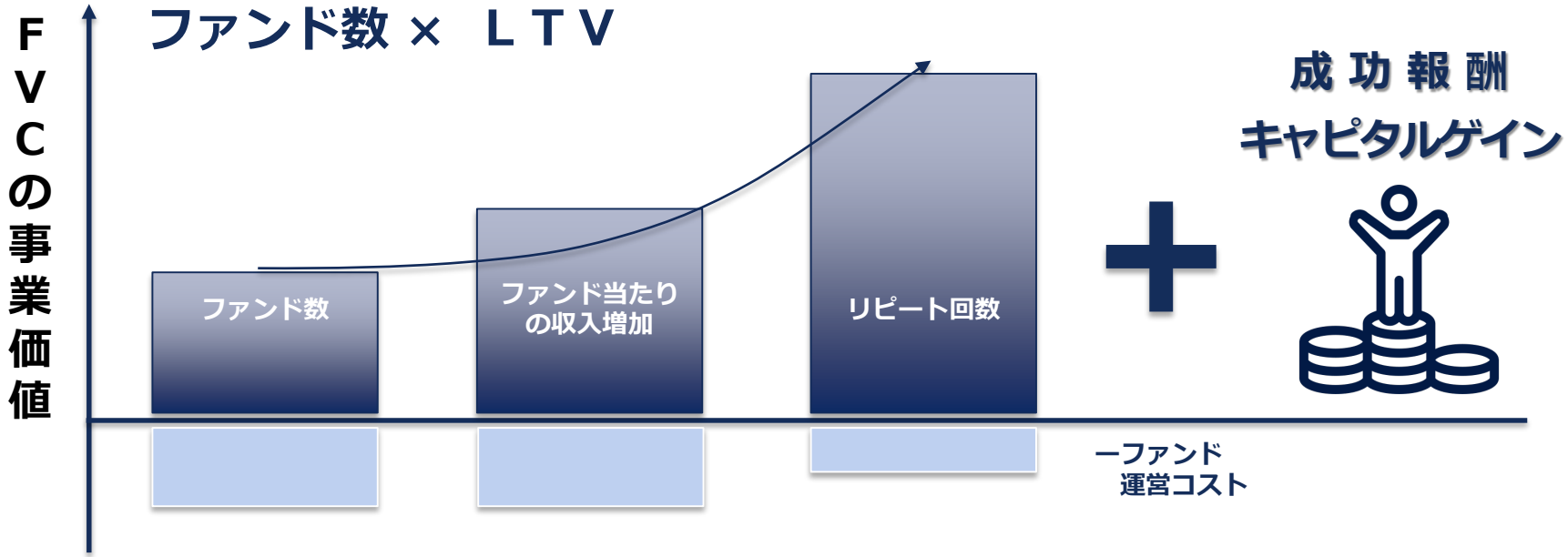
VaaSモデルの重要指標（KPI） （単位：百万円）	第21期 (2018/4~2019/3)	第22期 (2019/4~2020/3)	第23期 (2020/4~2021/3)
ファンド総額	9,701	14,720	17,981
1ファンド当たり平均ファンド総額	335	387	418
ARR（ストック収入）	223	330	386
リピート率(※)	50%	58%	77%
ARR/ファンド運営コスト	52%	76%	101%

※ファンド設立後5年以内に同じ出資者によってファンドが組成された確率

1.4.VaaSモデルの将来性

Future Venture Capital

ファンド数＆規模	地方創生ファンドはコロナ禍でも事業承継ファンドの設立ニーズが高まり、大規模地方銀行もターゲットに。CVCは1企業単独の小型ファンドから特定の領域に特化した複数企業での中規模ファンドの設立ニーズが高まる。
リピート率	ファンド出資者のプレゼンス向上、出資者の意図にあった着実な投資実行、投資先との事業シナジーの増加、投資リターンの確保により顧客満足度の向上を図る。
ファンド運営コスト	ソーシング、モニタリング、ファンド決算など、投資活動に関する情報を効率的に管理できるシステムの構築、業務効率化を実施し、運営コストの最小化を図る。



1.5.ビジネスモデル別売上高推移

Future Venture Capital

VaaSモデルのストック収入が毎期増加。
フロー収入も投資先のEXITにより株式売却高、成功報酬が発生。

単位：百万円				第21期 (2018/4~2019/3)	第22期 (2019/4~2020/3)	第23期 (2020/4~2021/3)
VaaSビジネル	ストック収入			223	330	386
	フロー収入	株式売却高		1	2	14
		成功報酬	IPO	0	0	150
			IPO以外	4	3	9
		引当減損		-	-	-
	VaaSモデル売上高-計			228	335	559
従来モデルベンチャーファンド				245	22	214
コンサル、コワーキング				97	97	84
本体直接投資(※)				3	0	3
連結売上高				573	454	860

※デジアラホールディングスの収入は、会計上、売上高ではなく営業外収益として計上されるため、含まれておりません。

1.6.ビジネスモデル別経常損益推移

Future Venture Capital

VaaSモデルは、ストック収益が黒字化、EXITによるフロー収益が利益増加に貢献、引当減損は出資比率が低く限定的、従来モデルはキャピタルゲインを獲得

単位：百万円				第21期 (2018/4~2019/3)	第22期 (2019/4~2020/3)	第23期 (2020/4~2021/3)
VaaSビジネス	ストック収益			-210	-106	4
	フロー収益	株式売却高		0	0	5
		成功報酬	IPO	0	0	144
			IPO以外	4	3	9
		引当減損		-1	-2	-7
	VaaSモデル経常損益-計			-207	-105	155
従来モデルベンチャーファンド				60	9	131
コンサル、コワーキング				9	5	4
本体直接投資				13	77	-197（※）
連結経常損益				-125	-14	94

※主な内訳は、デジアラホールディングスの持分法投資利益107百万円、H.I.F.の減損299百万円等

1.7.連結決算概要（PL）

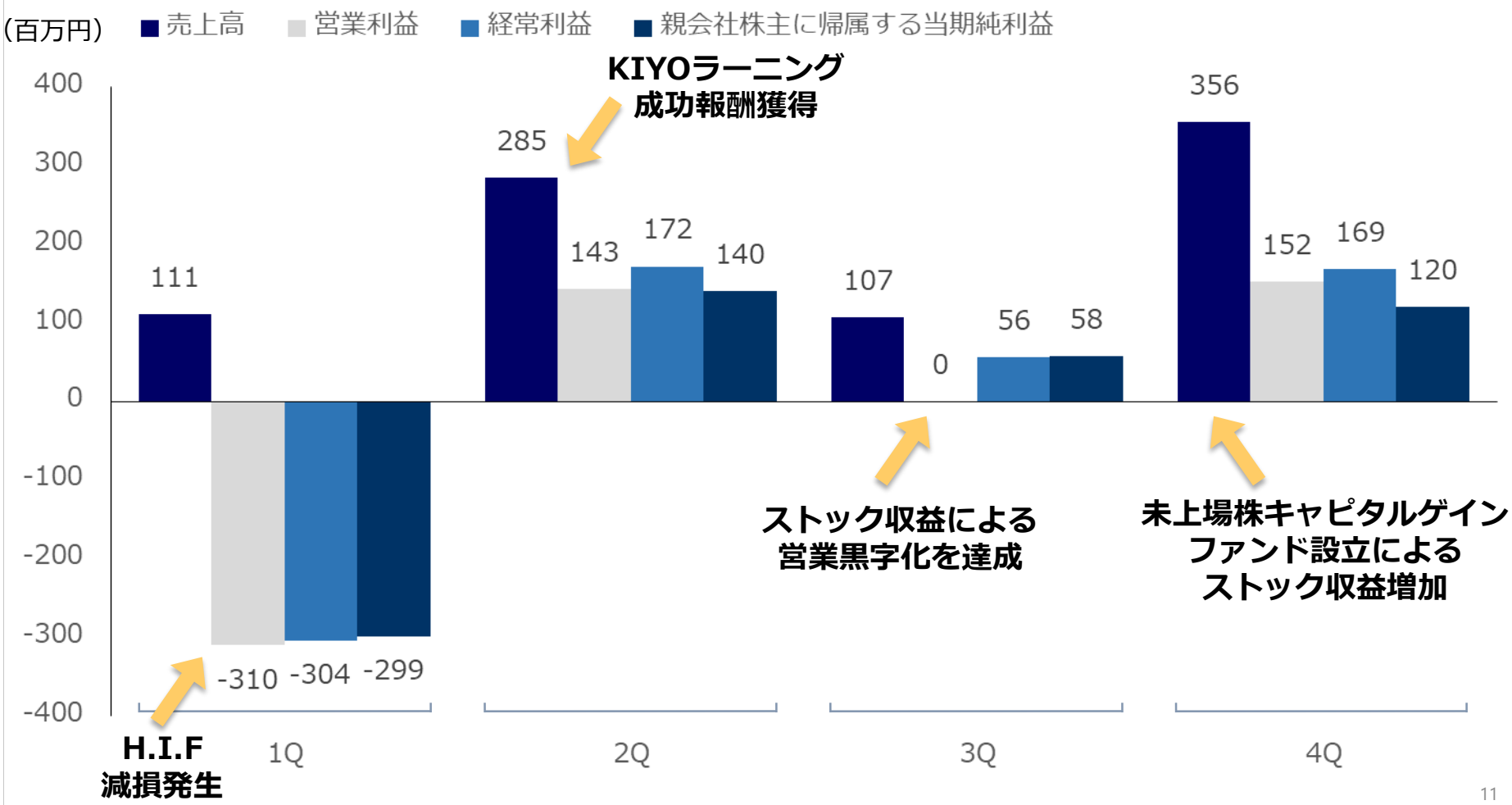
Future Venture Capital

単位：百万円	第22期 (2019/4~2020/3)	第23期 (2020/4~2021/3)	対前期比
売上高	**454**	**860**	**406**
営業損益	**-102**	**-14**	**87**
経常損益	**-14**	**94**	**108**
当期純損益	**-27**	**90**	**117**
親会社株主に帰属する当期純損益	**-37**	**20**	**57**

1.8.決算概要（四半期PL）

Future Venture Capital

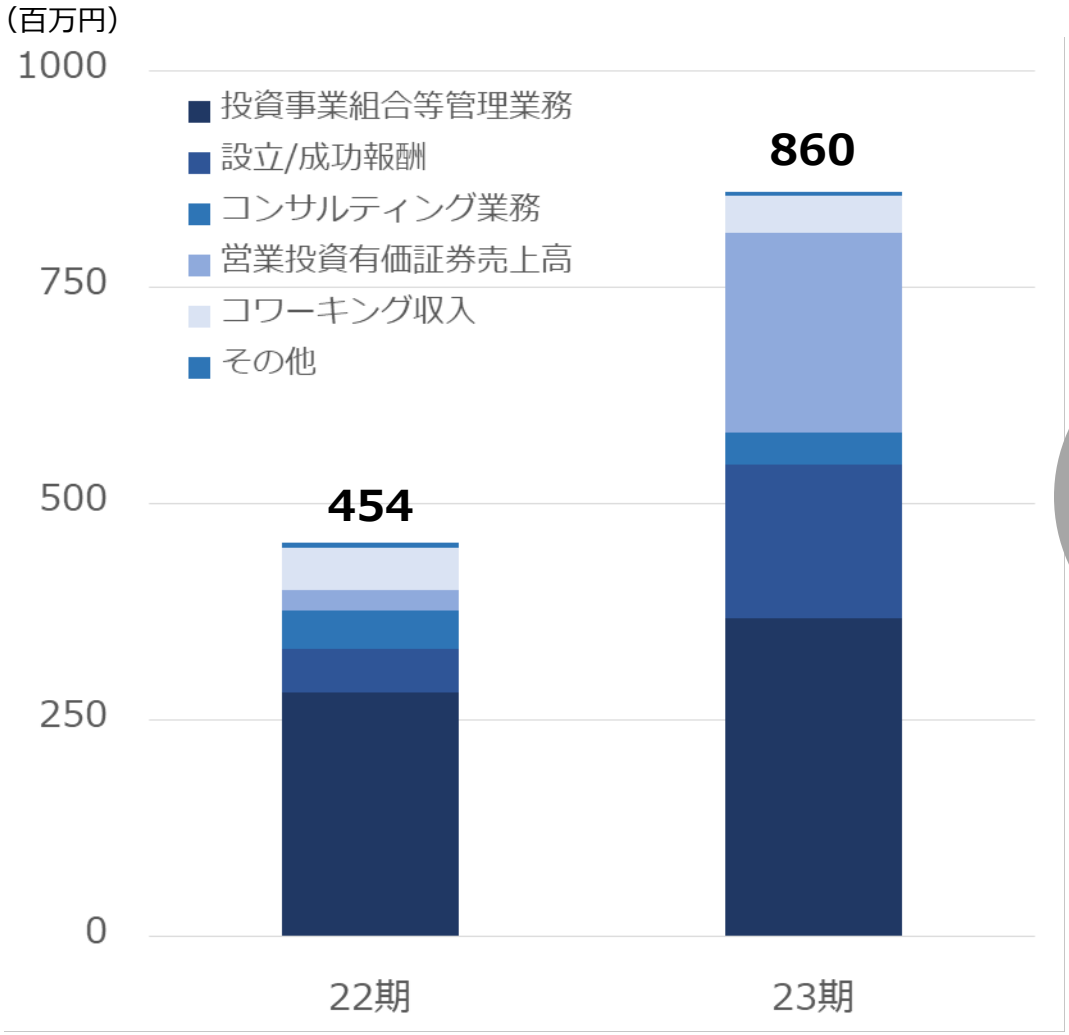
運用中ファンドの増加で、当第３四半期会計期間に安定収入により固定的経費を賄うことができるようになり、新規上場のみに依存しないビジネスモデルを確立。



1.9.売上高の内訳

Future Venture Capital

運用ファンドの増加やEXITによる成功報酬の獲得、未上場株の売却等で売上高は増収、前年比＋405百万円となる。



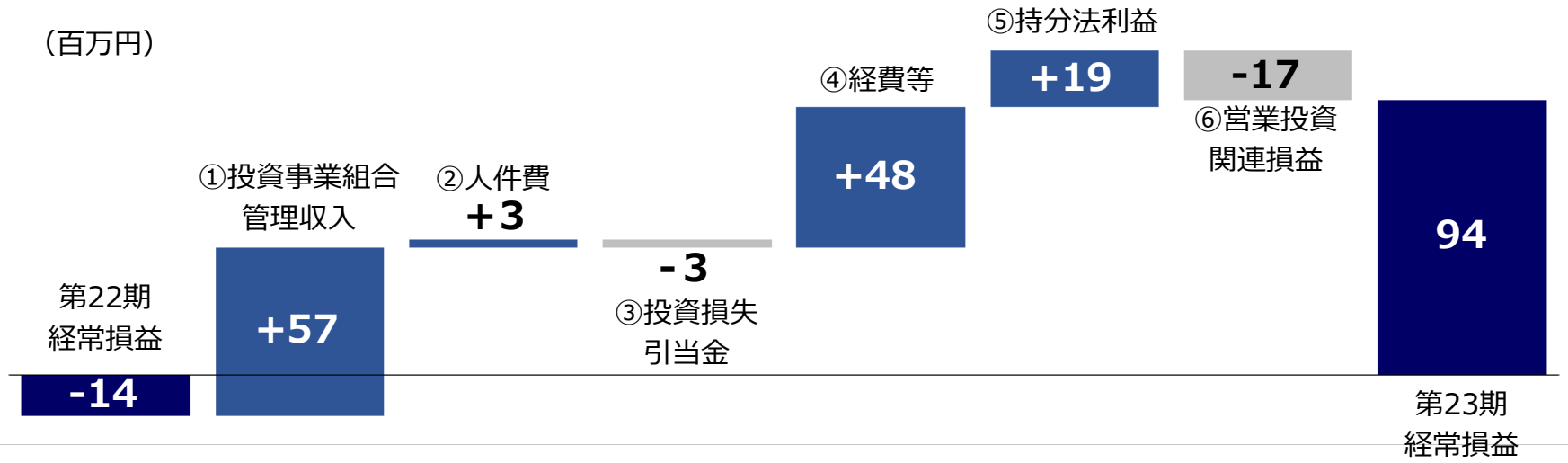
管理報酬
+86

設立報酬
-28

成功報酬
+155

営業投資
有価証券
売上高
+207

1.10.経常損益の増減分析（前年同期比）



①投資事業組合管理収入（成功報酬除く）
運用中のファンド増加による管理報酬は増加、設立報酬は新規設立減で減少。
事業承継ファンド、テーマファンドなどファンドの大型化、多様化と共に後継ファンドの設立も進む。

②人件費
投資担当者の採用継続により人件費が増加。

③投資損失引当金
投資損失引当金(FVC持分)の発生は限定的。

④経費等
効率的なファンド運営体制の構築
原価改善等により経費が減少。

⑤持分法利益
持分法適用会社の業績が好調を継続、
持分法投資利益が増加。

⑥営業投資関連損益（成功報酬含む）
H.I.F.減損、KIYOラーニング等の成功報酬獲得、未上場株キャピタルゲインを計上

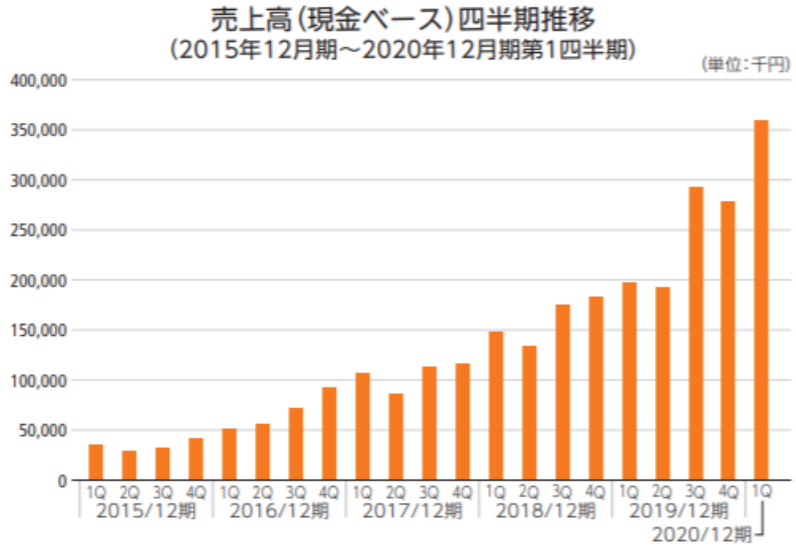
1.11. KIYOラーニング株式会社上場

Future Venture Capital

かんしん未来ファンド、ウィルグループインキュベートファンドより出資した、KIYOラーニング株式会社が7月15日にマザーズ上場、売却によるキャピタルゲインの他に成功報酬として150百万円を獲得。

KIYO LEARNING

所在地	東京都千代田区
事業内容	個人向けオンライン資格講座及び 法人向け社員教育クラウドサービスの提供
株式比率	かんしん未来ファンド　3.70% ウィルグループファンド　2.67% ※両ファンドを合わせるとVCとしては第2位の比率

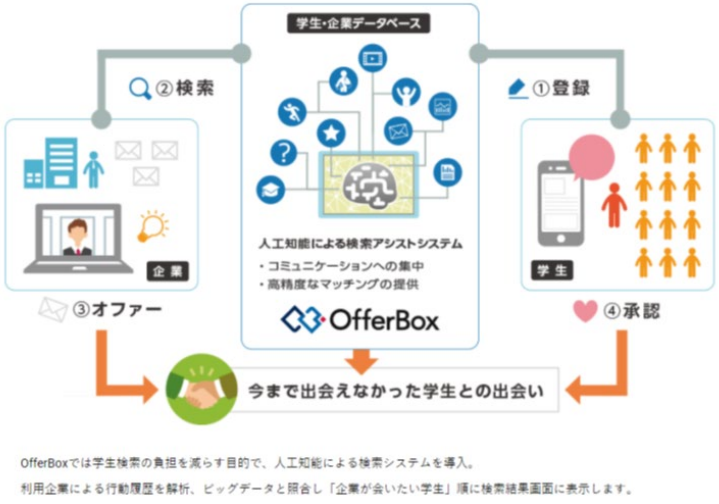


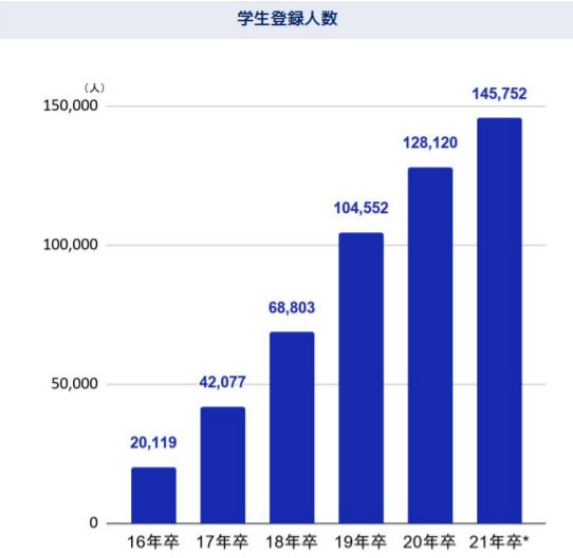
1.12. 株式会社i-plug上場

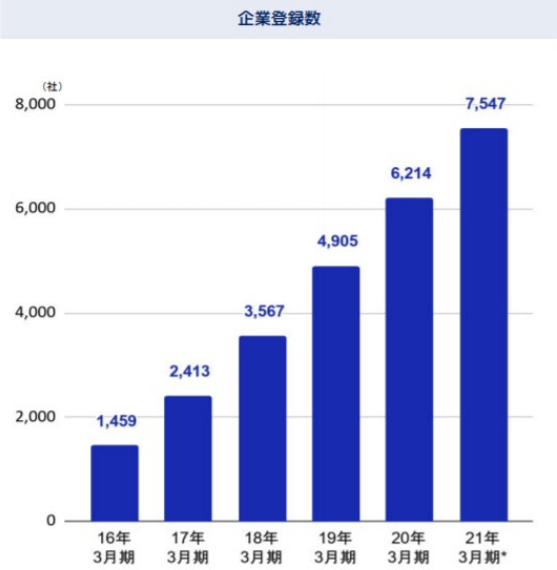
おおさか社会課題ファンドより出資した株式会社i-plugが3月18日にマザーズ上場、成功報酬はファンド出資総額を超えた場合に発生する契約のため計上無し、ファンドではキャピタルゲインが発生しており、回収が順調に進む、今後、成功報酬の獲得を見込む。

所在地	大阪府大阪市
事業内容	新卒逆求人サイト「OfferBox（オファーボックス）」シリーズの運営
株式比率	おおさか社会課題ファンド　　1.70%

OfferBox の仕組み







1.13.営業外収益

Future Venture Capital

持分法適用関連会社であるデジアラホールディングスの業績が好調に推移し、持分法による投資利益を計上、前期比＋19百万円となる。

※業績数値の詳細は非開示

持分法による投資利益

107

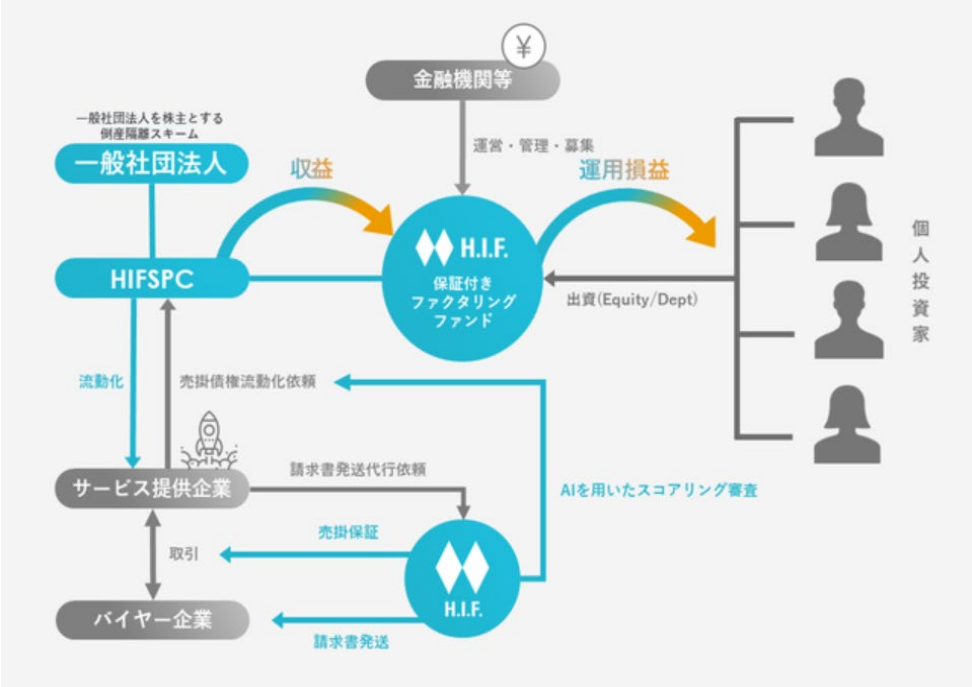
百万円

所在地	神戸市東灘区向洋町中6丁目9
事業内容	インターネットを利用した大型住宅設備機器等の販売　など
資本金	99百万円
取得株式数	5,080株（持株比率24.8%）
株式取得実行日	2017年9月28日,11月30日

1.14.H.I.F.株式会社

MBO支援、事業シナジーを目的に、FVC本体よりH.I.F.へ間接投資を実施するも、架空債権詐欺による損失発生に伴い、第１四半期に評価損を299百万円計上。その後事業継続に向け再建計画を策定し、2021年2月にAI与信審査システムの開発及び資本増強を目的とした第三社割当増資により15.9億円の資金を調達。引き続き、成長支援、事業シナジーの拡大を図る。

所在地	東京都新宿区西新宿6-21-1
事業内容	AI与信審査業・決済代行業・売掛金保証業
資本金	2,112百万円（資本準備金含む）
備考	H.I.F.の代表である東小薗社長の資産管理会社への投資を通じた間接投資



SPCを活用したファンドスキームによるリスクオフモデル

1.15.株式会社ZMP

Future Venture Capital

FVCグロース二号ファンド（当社出資比率52.6%）より48百万円投資し、第20期（2018年3月期）に株式を一部売却。第21期から当第23期には売却しておらず、180万株を継続保有中。

Robot of Everything

所在地	東京都文京区
事業内容	自律移動ロボットテクノロジー事業
資本金	1,302百万円
投資時点株価	20円
残株数	1,800,000株

1.16.連結決算概要（BS）

Future Venture Capital

単位：百万円	第22期 (2020/3末)	第23期 (2021/3末)	対前期比
流動資産	2,284	2,335	51
うち　現金及び預金	1,794	2,040	245
うち　営業投資有価証券	457	108	△348
うち　投資損失引当金	△2	△7	△4
固定資産	762	863	100
資産合計	3,046	3,199	152
流動負債	282	365	82
固定負債	33	33	△0
負債合計	315	398	82
自己資本	2,597	2,620	22
純資産	2,731	2,801	70
総資産	3,046	3,199	152
自己資本比率	85.3%	81.9%	△3.4%

1.17.連結決算概要（CF）

Future Venture Capital

単位：百万円	第22期 (2019/4~2020/3)	第23期 (2020/4~2021/3)	対前期比
営業活動による キャッシュ・フロー	**-290**	**277**	**568**
投資活動による キャッシュ・フロー	**9**	**-12**	**-21**
財務活動による キャッシュ・フロー	**-64**	**-19**	**45**
現金及び現金同等物の 期末残高	**1,794**	**2,040**	**245**

※当社及び当社が管理・運営する投資事業組合からのスタートアップ等への投資及び売却に係る
　キャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローにて計上しております。

主な取り組み

2020/4～2021/3

FVCのファンドについて

Future Venture Capital

地方創生ファンド

出口戦略を必ずしもIPOやM&Aに限定せず、地域における創業率の向上、域内経済の活性化を実現するためのファンド

CVC/テーマファンド

コーポレートベンチャリングの取り組みの促進ツールとして、特定の事業会社と事業シナジーの高いベンチャー企業への投資を行うファンド

ベンチャーファンド

優れた技術やサービスを持ち、成長性が高く見込まれるベンチャー企業への投資を行うファンド

Future Venture Capital

「地方創生ファンド」と「CVC/テーマファンド」に注力

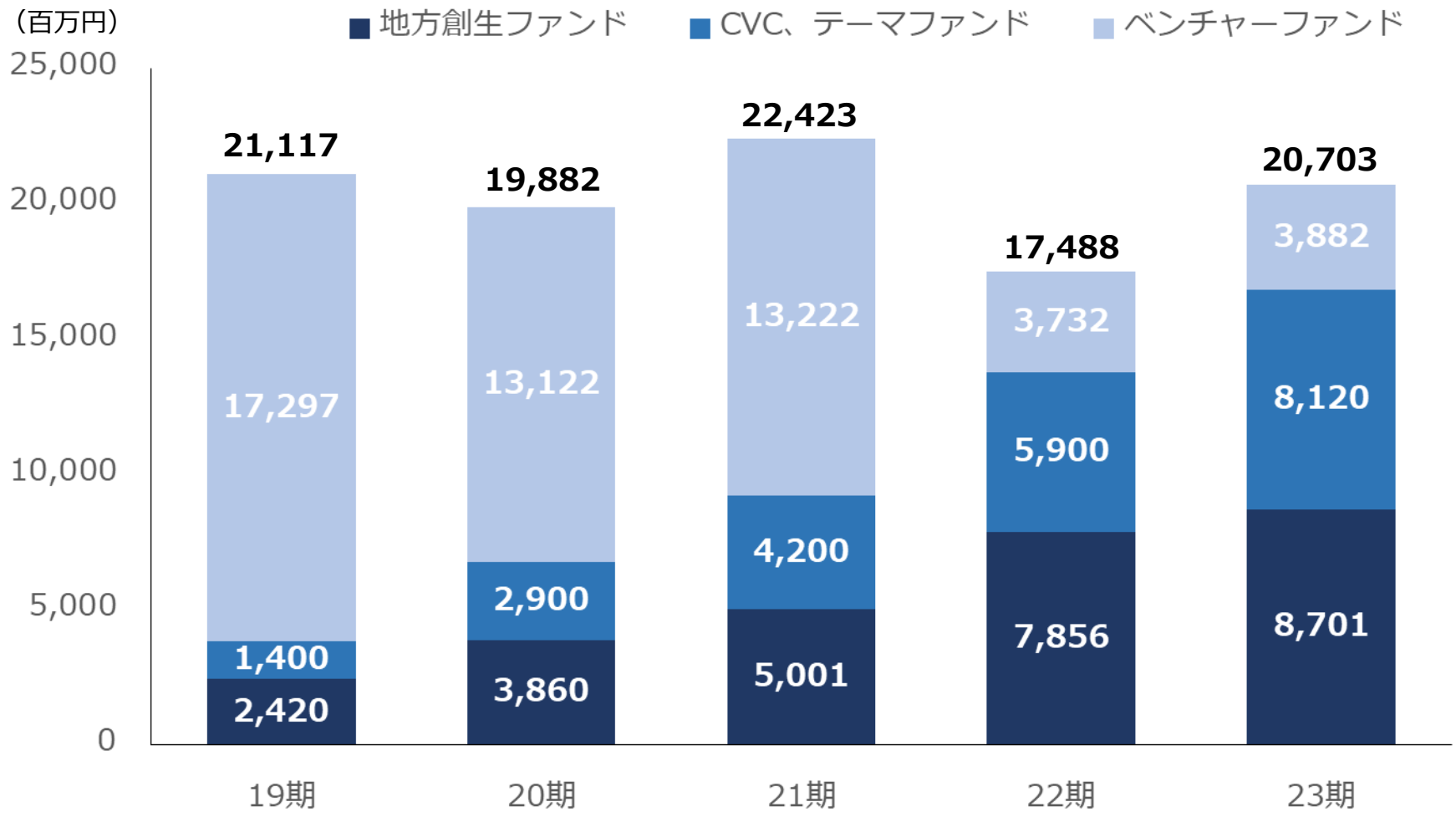
01 安定収益源確保のために、ニーズの高さを見せる「地方創生ファンド」と「CVC/テーマファンド」の新規設立を促進

02 ファンドの新規設立件数を拡大するために、人材強化と営業戦略の再構築を実施

03 ベンチャー企業への支援メニューの拡充と、ファンド運営の効率化を図るための新たなプラットフォームを構築

Future Venture Capital

CVC/テーマファンドは順調に増加、地方創生ファンドはコロナ対策優先で金融機関とのファンド設立が遅れ845百万円の増加に留まる。



Future Venture Capital

地域のベンチャー企業を支援する「地方創生ファンド」を新たに3ファンド設立。既存ファンドでも133百万円を増額。

（単位：百万円）

エリア	ファンド名	設立	総額
大分	ほうわ創業・事業承継支援ファンド	2020/6	300
京都	京都市スタートアップ支援2号	2020/9	260
岩手	もりおかSDGsファンド	2021/1	198

新規ファンド設立数

3 本

新規ファンド設立総額

758 百万円

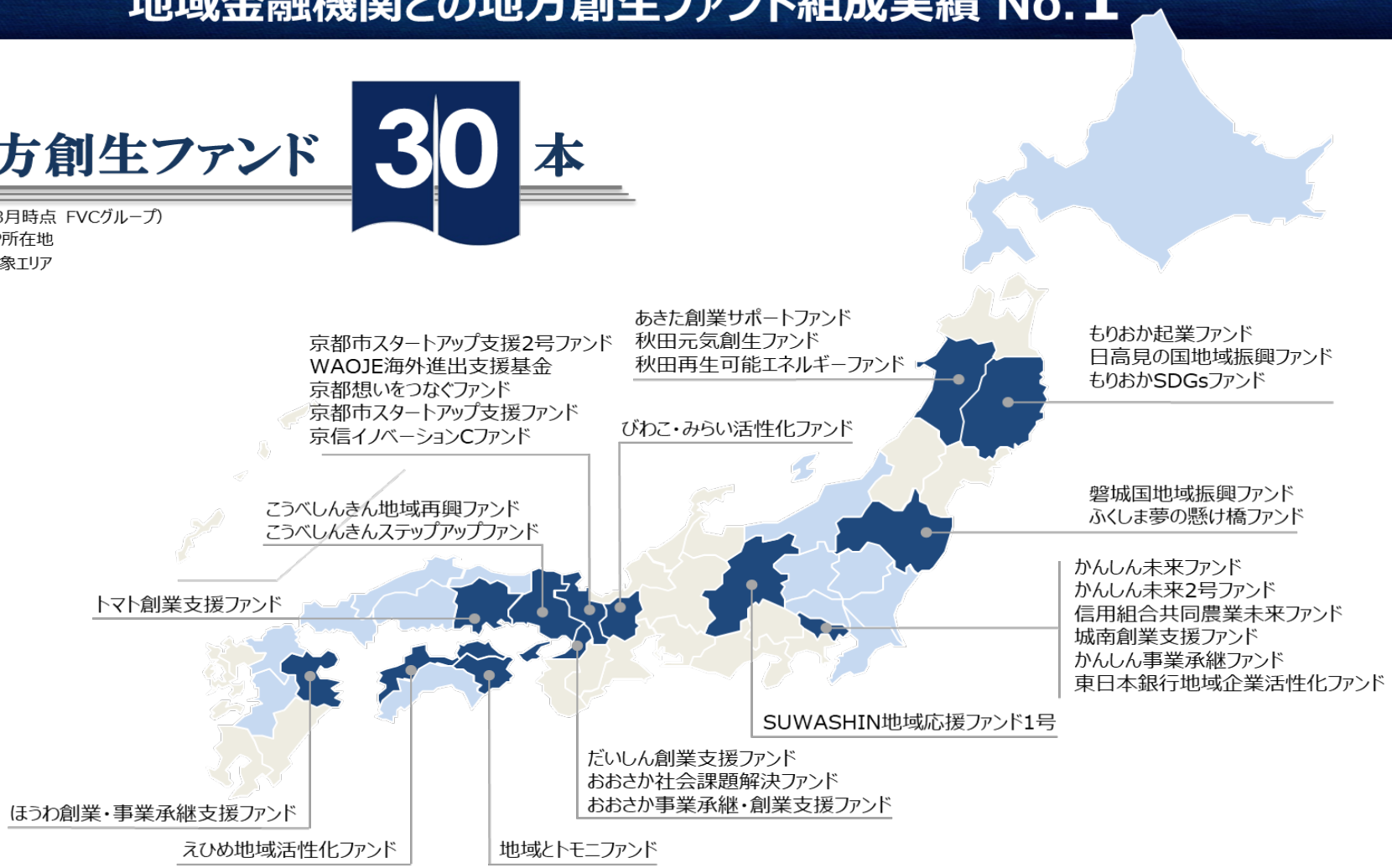
Future Venture Capital

金融機関と共同でファンド設立を継続、投資可能エリアを拡大中
今後、アフターコロナに向けてファンドの設立が期待される

地域金融機関との地方創生ファンド組成実績 No.1

地方創生ファンド 30本

（2021年3月時点 FVCグループ）
- 主要LP所在地
- 投資対象エリア



2.5. ＣＶＣ/テーマファンドの第22期組成実績

Future Venture Capital

事業会社のオープンイノベーションを目的としたCVC/テーマファンドを新たに設立、前期設立のロボットファンドについても、1,700百万円から2021年3月末で2,300百万円、同年4月末で2,500百万円に増額。

ブリッジベンチャーファンド 2020

設立	2020年7月
ファンド総額	300百万円
組合員構成	有限責任組合員：事業会社 無限責任組合員：FVC
投資対象	国内外の未上場企業の株式等への投資

創発の苔１号ファンド

設立	2021年3月
ファンド総額	1,320百万円
組合員構成	有限責任組合員：サイボウズ、ソウルドアウト、北國銀行、横浜銀行 無限責任組合員：FVC、鎌倉投信
投資対象	社会に変革し得る大きなビジョンがある国内の起業家・事業の未上場企業の株式等への投資

新規ファンド設立数

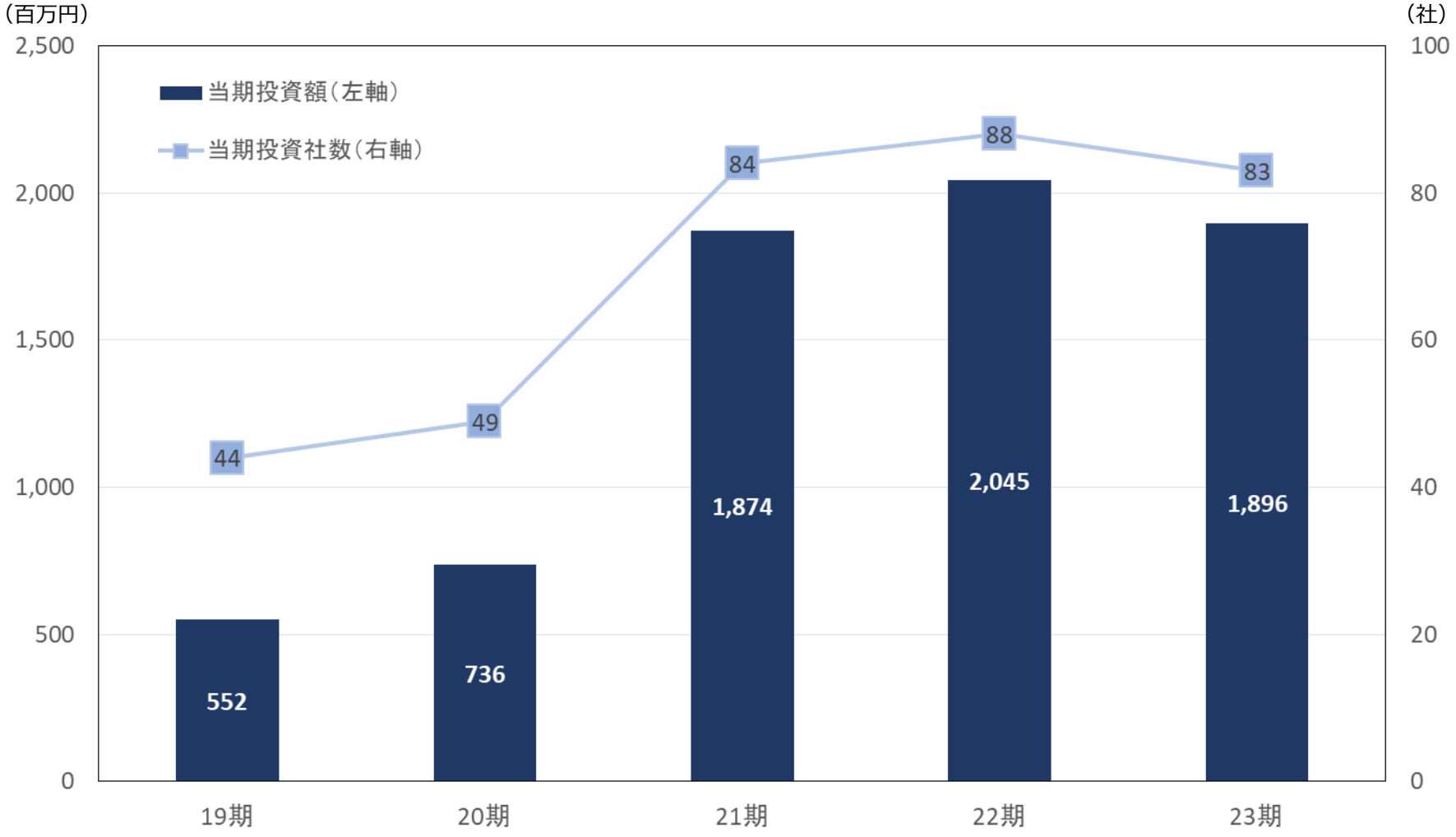
2 本

新規ファンド設立総額

1,620 百万円

Future Venture Capital

23期上期はコロナ対策により投資がストップするも、徐々に回復し、下期は新規ファンド設立もあり、投資社数／額は堅調に推移。



新型コロナウイルス感染症の影響について

Future Venture Capital

01

新型コロナ問題が長期化し、投資先企業の業績、資金繰りが悪化し、投資損失引当金や減損損失が増加する可能性があります。これに対し、当社はファンドへの出資比率を抑えることで、当社の業績へ与える影響を従来から減少させています。

02

株式市場の低迷、新規上場の減少によりＥｘｉｔ環境が悪化し、ファンドパフォーマンス低下や成功報酬減少の可能性があります。しかし、投資時のバリュエーションの低下は投資の好機でもあり、中長期的にはプラスと捉えることもできます。

03

ファンド設立が減少する可能性があります。市況の変化に左右されにくい、IPOやM&Aに出口を限った投資以外の創業支援投資、事業承継投資、事業シナジー投資によって、コロナ禍でも円滑な資金供給ができるファンド設立を推進してまいります。

従前からのビジネスモデルの転換により、新型コロナウイルスによる影響を最小限に。
今後の感染状況を注視しながらも成長が見込める先に積極的に投資を継続してまいります。

Future Venture Capital

本資料は情報の提供のみを目的としており、当社が発行する有価証券及び当社が管理運営するファンドへの投資勧誘を目的とするものではありません。また、本資料に掲載されている事項は資料作成時点において入手した情報に基づいたものですが、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。今後、予告なしに変更することがありますのでご了承ください。